

# 四半期報告書

(第15期第2四半期)

自 平成23年7月1日

至 平成23年9月30日

株式会社アイロムホールディングス

(E05352)

第15期第2四半期（自平成23年7月1日 至平成23年9月30日）

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営上の重要な契約等】 .....	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
第3 【提出会社の状況】 .....	6
1 【株式等の状況】 .....	6
2 【役員の状況】 .....	7
第4 【経理の状況】 .....	8
1 【四半期連結財務諸表】 .....	9
2 【その他】 .....	19
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	20

四半期レビュー報告書

確認書

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成23年11月14日

**【四半期会計期間】** 第15期第2四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)

**【会社名】** 株式会社アイロムホールディングス

**【英訳名】** I'rom Holdings Co., Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 渡辺 治

**【本店の所在の場所】** 東京都品川区大崎一丁目2番2号

**【電話番号】** 03 (5436) 3148 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役経財本部担当 渡辺 潔

**【最寄りの連絡場所】** 東京都品川区大崎一丁目2番2号

**【電話番号】** 03 (5436) 3148 (代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役経財本部担当 渡辺 潔

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第14期 第2四半期 連結累計期間	第15期 第2四半期 連結累計期間	第14期
会計期間	自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高 (百万円)	6,680	6,612	13,990
経常利益又は経常損失 (△) (百万円)	△173	44	233
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失 (△) (百万円)	167	△305	226
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	152	△282	211
純資産額 (百万円)	2,618	2,393	2,674
総資産額 (百万円)	13,161	13,027	13,160
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は四半期純損失金額 (△) (円)	179.34	△326.34	241.76
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	19.4	17.8	19.8
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	119	274	720
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	192	12	40
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△698	△117	△852
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	403	850	698

回次	第14期 第2四半期 連結会計期間	第15期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日	自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額 (△) (円)	106.47	△427.27

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第14期及び第14期第2四半期連結累計期間は新株予約権残高を有しておりますが、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第15期第2四半期連結累計期間は、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

4 第14期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

将来の本社移転先として合同会社パルマとの間で定期建物賃貸借契約を締結しました。当該契約の概要は以下の通りです。

物件名 : 富士見イーストの地下1階、1階、2階  
所在地 : 東京都千代田区富士見2-14-37  
面積 : 2,329.7㎡  
契約期間 : 平成23年9月30日から平成27年9月29日

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災により甚大な被害に見舞われ、依然として厳しい状況にあります。電力供給の問題など懸念すべき問題も多く、先行き不透明な状況で推移いたしました。

こうした状況にあって当社グループは、新薬の開発支援事業であるSMO事業、医薬品等の製造や販売業など、医療用関連分野における統合医療サポート企業として、各事業ポートフォリオの収益構造の強化を推進し、医療や医薬品、食品、健康等に関連した分野での積極展開を図っております。併せて、各事業の収益力向上に努めております。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は6,612百万円（前年同四半期比1.0%減）となりました。利益面につきましては、特に医薬品等の製造販売事業が寄与し、営業利益は110百万円（前年同四半期は営業損失133百万円）、経常利益は44百万円（前年同四半期は経常損失173百万円）となりました。しかしながら、事業構造改善費用等の特別損失を計上したこともあり、四半期純損失は305百万円（前年同四半期は四半期純利益167百万円）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

①SMO事業

当セグメントにおきましては、当初受託を見込んでおりました試験の延期等が発生しました。この結果、売上高は1,373百万円（前年同四半期比9.4%減）、営業利益は169百万円（前年同四半期比47.7%減）となりました。

②メディカルサポート事業

当セグメントにおきましては、引き続き既存モール等の収益力改善を進めております。この結果、売上高は254百万円（前年同四半期比16.5%減）、営業損失は45百万円（前年同四半期比52.5%減）となりました。

③医薬品等の販売事業

当セグメントにおきましては、地域に密接した「かかりつけ」としてのドラッグストア及び調剤薬局を店舗展開しております。様々な情報提供をしながら地域医療に貢献できるように集客を図り、安定した収益体質への改善に引き続き努めております。この結果、売上高は1,904百万円（前年同四半期比7.3%減）、営業利益は42百万円（前年同四半期比3.4%減）となりました。

④医薬品等の製造販売事業

当セグメントにおきましては、新規の薬剤の取扱により引き続き受託が堅調に推移しております。この結果、売上高は3,038百万円（前年同四半期比14.3%増）、営業利益は259百万円（前年同四半期は営業損失16百万円）となりました。

⑤その他

その他の事業におきましては、化粧品の臨床試験の受託に努めましたが、売上高は42百万円（前年同四半期比48.9%減）、営業損失は15百万円（前年同四半期比78.0%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べて151百万円増加し、850百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは営業活動の結果得られた資金は、274百万円（前年同四半期は119百万円の増加）となりました。主な要因は、前受金の増加額216百万円等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは投資活動の結果得られた資金は、12百万円（前年同四半期は192百万円の増加）となりました。主な要因は、投資有価証券売却による収入177百万円及び貸付けによる支出124百万円等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは財務活動の結果使用した資金は、117百万円（前年同四半期は698百万円の減少）となりました。主な要因は借入金の返済による借入金の減少117百万円等によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。



### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,728,168
計	3,728,168

###### ② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成23年11月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	935,142	935,142	東京証券取引所市場 第一部	(注) 1、2
計	935,142	935,142	—	—

(注) 1 提出日現在の発行数には、平成23年11月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

2 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお単元株制度は採用しておりません。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	—	935,142	—	6,286	—	7,577

## (6) 【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
森 豊隆	東京都港区	475,425	50.83
森 利恵	東京都港区	82,500	8.82
小林 令明	東京都文京区	7,956	0.85
楽天証券(株)	東京都品川区東品川4-12-3	7,780	0.83
森 龍介	東京都港区	7,500	0.80
従業員持株会	東京都品川区大崎1-2-2	4,877	0.52
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	4,158	0.44
野村証券(株)	東京都中央区日本橋1-9-1	3,565	0.38
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口6)	東京都中央区晴海1-8-11	3,503	0.37
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口3)	東京都中央区晴海1-8-11	3,225	0.34
計	—	600,489	64.21

(注) 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。  
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口) 3,729株

## (7) 【議決権の状況】

### ① 【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 935,142	935,142	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお単元株制度は採用しておりません。
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	935,142	—	—
総株主の議決権	—	935,142	—

### ② 【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

### (1) 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
取締役	—	深田 洋	平成23年7月25日
取締役	—	高野 靖悟	平成23年7月26日

## 第4 【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。）に基づいて作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、あらた監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	698	850
受取手形及び売掛金	2,753	2,737
商品及び製品	982	956
仕掛品	450	441
原材料及び貯蔵品	255	217
その他	1,729	1,278
貸倒引当金	△34	△33
流動資産合計	6,834	6,448
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,517	2,374
土地	1,968	1,968
その他（純額）	417	385
有形固定資産合計	4,903	4,728
無形固定資産		
その他	49	121
無形固定資産合計	49	121
投資その他の資産		
長期貸付金	5,623	6,225
その他	1,914	1,745
貸倒引当金	△6,166	△6,242
投資その他の資産合計	1,372	1,728
固定資産合計	6,325	6,578
資産合計	13,160	13,027
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,726	1,815
短期借入金	5,268	5,156
未払法人税等	246	19
賞与引当金	38	38
資産除去債務	—	41
その他	1,609	2,074
流動負債合計	8,889	9,146
固定負債		
退職給付引当金	447	462
債務保証損失引当金	538	440
資産除去債務	115	74
その他	※3 494	※3 510

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
固定負債合計	1,595	1,487
負債合計	10,485	10,634
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,286	6,286
資本剰余金	7,577	7,577
利益剰余金	△11,241	△11,546
株主資本合計	2,622	2,317
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△14	△0
その他の包括利益累計額合計	△14	△0
新株予約権	20	21
少数株主持分	46	55
純資産合計	2,674	2,393
負債純資産合計	13,160	13,027

(2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	6,680	6,612
売上原価	4,963	4,816
売上総利益	1,716	1,796
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	570	569
その他	1,280	1,116
販売費及び一般管理費合計	1,850	1,685
営業利益又は営業損失(△)	△133	110
営業外収益		
受取利息	19	19
受取配当金	0	0
未払消費税戻入益	13	—
債務保証損失引当金戻入額	—	123
貸倒引当金戻入額	—	52
その他	21	13
営業外収益合計	53	208
営業外費用		
支払利息	63	64
貸倒引当金繰入額	—	126
その他	30	82
営業外費用合計	93	274
経常利益又は経常損失(△)	△173	44
特別利益		
投資有価証券売却益	45	94
債務保証損失引当金戻入額	194	—
債務免除益	—	29
棚卸資産等受贈益	124	—
その他	55	5
特別利益合計	420	129
特別損失		
減損損失	11	76
貸倒引当金繰入額	184	—
事業構造改善費用	—	309
その他	159	47
特別損失合計	356	433
税金等調整前四半期純損失(△)	△108	△258
法人税、住民税及び事業税	32	17
法人税等の更正、決定等による納付税額又は還付税額	△49	△0
法人税等調整額	23	20
過年度法人税等戻入額	△275	—

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
法人税等合計	△268	38
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	159	△296
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△8	8
四半期純利益又は四半期純損失(△)	167	△305
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△8	8
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	159	△296
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6	14
その他の包括利益合計	△6	14
四半期包括利益	152	△282
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	161	△290
少数株主に係る四半期包括利益	△8	8

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△108	△258
減価償却費	214	179
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	54	—
減損損失	11	76
のれん償却額	114	1
貸倒引当金の増減額(△は減少)	185	74
債務保証損失引当金の増減額(△は減少)	△194	△98
受取利息及び受取配当金	△19	△19
支払利息	63	64
為替差損益(△は益)	△0	17
投資有価証券売却損益(△は益)	△45	△94
固定資産除却損	52	0
事業構造改善費用	—	309
売上債権の増減額(△は増加)	△122	16
たな卸資産の増減額(△は増加)	△145	72
仕入債務の増減額(△は減少)	229	45
前受金の増減額(△は減少)	152	216
その他	△207	△42
小計	234	563
利息及び配当金の受取額	19	19
利息の支払額	△63	△62
法人税等の支払額	△2	△244
訂正報告書作成に伴う費用の支払額	△68	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	119	274
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
担保預金の回収による収入	300	—
有形固定資産の取得による支出	△59	△15
無形固定資産の取得による支出	△0	△47
投資有価証券の売却による収入	—	177
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△36	—
貸付けによる支出	△111	△124
貸付金の回収による収入	19	10
差入保証金の差入による支出	—	△5
差入保証金の回収による収入	69	19
その他	12	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	192	12



(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△407	△111
長期借入金の返済による支出	△290	△5
その他	△0	△0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△698	△117
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△17
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△387	151
現金及び現金同等物の期首残高	790	698
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 403	※1 850

【会計方針の変更等】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
<p>(会計方針の変更)</p> <p>第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日)を適用しております。</p> <p>潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定にあたり、一定期間の勤務後に権利が確定するストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。</p> <p>なお、これによる潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額に与える影響はありません。</p>

【追加情報】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
<p>第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。</p>

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対して、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
医療法人社団上善会	440百万円
慶田 朋子	1百万円
計	442百万円
債務保証損失引当金	△440百万円
差引額	1百万円

2 手形割引高及び裏書譲渡高

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
受取手形割引高	71百万円

※3 のれん及び負ののれんの表示

のれん及び負ののれんは、相殺表示しております。相殺前の金額は次のとおりであります。

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
のれん	1百万円
負ののれん	9百万円
差引	△8百万円

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)
現金及び預金勘定	403百万円	850百万円
現金及び現金同等物	403百万円	850百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年9月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連 結損益及 び包括利 益計算書 計上額 (注3)
	SMO事業	メディカル サポート事業	人材コンサル ティング事業	医薬品等の 販売事業	医薬品等の 製造販売事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	1,515	304	64	2,053	2,658	6,598	82	6,680	—	6,680
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1	9	26	0	3	41	20	61	△61	—
計	1,517	314	91	2,054	2,662	6,639	103	6,742	△61	6,680
セグメント利益 又は損失(△)	324	△95	△5	44	△16	251	△71	179	△313	△133

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、CRO事業及びデザイン事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△313百万円には、セグメント間取引消去△18百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△294百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益または損失(△)は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益又は損失(△)と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

その他の事業において、のれんの減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第2四半期連結累計期間においては11百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連 結損益及 び包括利 益計算書 計上額 (注3)
	SMO事業	メディカル サポート事業	人材コンサル ティング事業	医薬品等の 販売事業	医薬品等の 製造販売事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	1,373	254	—	1,904	3,038	6,570	42	6,612	—	6,612
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	11	9	—	0	3	24	4	29	△29	—
計	1,385	263	—	1,904	3,041	6,595	46	6,642	△29	6,612
セグメント利益 又は損失（△）	169	△45	—	42	259	426	△15	410	△300	110

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、CRO事業及びデザイン事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△300百万円には、セグメント間取引消去1百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△301百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益又は営業損失(△)と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

報告セグメントにおいて該当事項はありません。なお、報告セグメントに配分されていない減損損失76百万円は本社移転に伴い処分を予定している資産について、帳簿価額を回収可能価額まで減額したものであります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額(△)	179円34銭	△326円34銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 又は四半期純損失金額(△)(百万円)	167	△305
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額 又は四半期純損失金額(△)(百万円)	167	△305
普通株式の期中平均株式数(株)	935,142	935,142

(注) 前第2四半期連結累計期間に係る潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、新株予約権残高を有しておりますが、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

当第2四半期連結累計期間に係る潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月14日

株式会社アイロムホールディングス

取締役会 御中

あらた監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 友田和彦 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 小沢直靖 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アイロムホールディングスの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アイロムホールディングス及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## その他の事項

会社の平成23年3月31日をもって終了した前連結会計年度の第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表並びに前連結会計年度の連結財務諸表は、それぞれ、前任監査人によって四半期レビュー及び監査が実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成22年11月12日付けで無限定の結論を表明しており、また、当該連結財務諸表に対して平成23年6月29日付けで無限定適正意見を表明している。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。



**【表紙】**

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年11月14日
【会社名】	株式会社アイロムホールディングス
【英訳名】	I'rom Holdings Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 渡辺 治
【最高財務責任者の役職氏名】	該当する事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都品川区大崎一丁目2番2号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 渡辺治は、当社の第15期第2四半期(自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

## 2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。

